

情報環境学特論

担当教員	塚田浩二, 白石陽
対象	博士（前期）
科目群	情報アーキテクチャ領域

授業概要

近年、スマートフォン・家電・IoTをはじめとして、コンピュータが日常生活に浸透し、情報環境と生活が一体化しつつある。本講義では、こうした新しいコンピュータの在り方を実現するための基盤技術や応用技術について、最新の研究事例を織り交ぜて紹介する。

塚田/白石の二人で数コマずつ交代で担当しており、塚田の担当回はユビキタスコンピューティングやヒューマンコンピュータインタラクションの新旧の研究紹介を導入として、受講者による「学会」や「国際会議論文」の調査/発表課題を中心に構成される。白石の担当回は、センサやモビリティ技術等の最新の技術を幅広く扱い、各回ごとに振り返りを目的とした講義レポートを課す。

キーワード

ユビキタスコンピューティング, ヒューマンコンピュータインタラクション, センシング技術, 位置情報技術, モビリティ技術, 学会, 国際会議

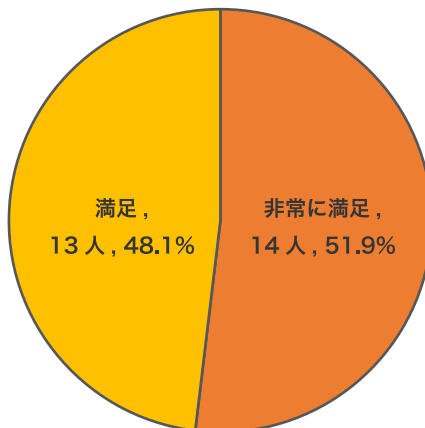
到達目標

我々を取り巻く新しい情報環境の基盤技術/応用事例について学ぶ。

授業フィードバックアンケート結果

授業満足度

非常に満足	14人	51.9%
満足	13人	48.1%
コメントあり	0人	0.0%
不満	0人	0.0%



コメントあり, 0人, 0.0%
不満, 0人, 0.0%

授業フィードバックアンケート結果

来年度以降も続けてほしいこと（抜粋）

- さまざまな学会や分野について広く話題を知ることができた。また、自分の研究をまとめることや他者の研究を知る良い機会となった。
- 論文の調査発表は、論文を読んでアウトプットするという過程で、読み方／伝え方などを自然と学べるので良いと思いました。
- 2回の発表の機会、それぞれにアドバイス等をくださって発表力の向上にもなったかと思います。
- 論文を、学生に向けて発表する経験が貴重で、よかったです。講義内容も、普段生活している環境や場面で、自分の知らないセンサや情報の使い方を知れました。
- 授業をより前のめりに参加できるように工夫していたり、様々な最新トピックを紹介して下さったり、とてもよかったです。

履修者から後輩へのアドバイス（抜粋）

- 授業名が若干お堅い感じですが、授業内容がとても面白く、様々な研究を知れたり分野の動向を知れるため、とても参考になる授業でした。特にHCI分野や、ネットワーク・モビリティ分野の研究をしている人は、受講を強く推奨します！
- 情報技術の周辺事情について幅広く扱っているので、学びきっかけを得られる講義だと思います。特に論文調査発表の課題が、論文を読んでまとめて発表するという、研究に直接結びつく力をつけられるので良いと思います。
- これまでの研究から新しい研究まで幅広く、また、分野も広いので、縦にも横にも広い研究内容を学ぶことができるのでしっかりと話を聞くと楽しい講義だと思います。
- 研究事例の紹介をとおして、最新の研究情報をアップデートできる講義です。院生は特に、最新の情報を常にアップデートしておく必要があるので、講義内でこれを行うことができる点で、非常におすすめです。
- 英語論文の読み方や最近の知識を得られるという点で、院進を考える学部生が受ける内容として役立つものがとても多かったと感じる。

担当教員インタビュー

Q この授業を設計・実施する際のポイントを教えてください。

A 塚田／白石の二人の担当回を2～3回毎に交互に行う形式としており、それぞれのスタイルで講義を進めています。センサ／ユビキタスコンピューティング等を共通点としつつ、塚田回では「学会」や「国際会議論文」等を調査して、全員の前で発表する課題が中心となります。導入として、研究発表や学会の種類、国際会議論文の読み方等の研究の基本的な部分も紹介しています。白石回では、最新の研究トピック等を紹介する講義が中心となりますが、講義中のリアルタイムのアンケートやチャット、400字以上の軽い振り返りレポートを課すことで、インタラクティブな形式になるように工夫しています。

Q この授業で特に気をつけているところは何ですか？

A 多様な領域の受講者がいることに配慮して、幅広く興味を持ってもらえる研究トピックを選定したり、動画を多く使った説明をする等工夫しています。また、M1や進学予定のB4が前期に受講することが多いので、大学院で研究するためのマインド（学会情報を調べる、国際会議論文を効率的に読む、調べた情報を端的にまとめて発表する等）を身に付けてもらえるように意識しています。また、（受講者が多いのでやや大変なのですが）、各発表には短時間でも教員からフィードバックする時間をとっています。

Q この授業を担当していておもしろいところ、楽しいところを教えてください。

A 学生の発表や振り返り等を通して、教員としてもインプットの多い講義という点が面白いところかなと思います。授業フィードバックを見ると、ここが学生の学びにも繋がっているようでよかったです。